

事項 もも、ネクタリン、すももの樹種複合での病虫害防除の多くを共通化する散布体系

ねらい もも、ネクタリン、すもものを栽培している樹種複合園での病虫害防除は、樹種ごとの薬剤散布により多大な労力と経費を要している。そこで、防除作業の効率化を図るために、できるだけ3樹種に共通させた薬剤散布のモデル体系を組み立てたので参考に供する。

指導参考内容

1 もも、ネクタリン、すももの樹種複合園での病虫害防除の薬剤散布体系

回数	散布時期	対象病虫害		防除剤	
		もも (ネクタリン)	すもも	もも (ネクタリン)	すもも
2	発芽前	縮葉病	ふくろみ病	テウラム剤 500倍	
3	落花直後	/		アンピルフロアブル 1000倍 又はバスタード顆粒水和剤 1500倍	
4	落花10日後			黒星病 シンクイムシ類	テウラム剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍 又はサニバー 600倍 ダイアジノン水和剤 1000倍
5	落花20日後	黒星病 シンクイムシ類	炭疽病	テウラム剤 500倍 ダイアジノン水和剤 1000倍 又はダースバンドF 3000倍	
6	落花30日後	灰星病 黒星病 シンクイムシ類	/		テウラム剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍 ダイアジノン水和剤 1000倍
7	落花40日後	灰星病 黒星病 シンクイムシ類			炭疽病
8	7月上旬	灰星病 黒星病		ベルコートフロアブル 2000倍	ベルコートフロアブル 2000倍
9	7月中旬	灰星病 黒星病	灰星病	ダコニール 1000 1000倍	ロブラール水和剤 1500倍
		シンクイムシ類		ジノテフラン剤 2000倍	スカウトフロアブル 2000倍
10	7月下旬	灰星病 黒星病 シンクイムシ類		ベルコートフロアブル 2000倍 モスピラン水溶剤 4000倍	
11	8月上旬	灰星病		ストロビードライフロアブル 2000倍	
		シンクイムシ類	アブラムシ類	ダントツ水溶剤 2000倍 又はジノテフラン剤 2000倍	
12	8月中旬	灰星病		ロブラール水和剤 1500倍 又はEBI剤	
		シンクイムシ類		モスピラン水溶剤 4000倍	
13	8月下旬	灰星病		ストロビードライフロアブル 2000倍	
		シンクイムシ類	アブラムシ類	ジノテフラン剤 2000倍	
14	9月上旬	灰星病		ロブラール水和剤 1500倍 又はEBI剤	
1	休眠期	コスカシハ*		ガットキラー乳剤 100倍	

(注) 1 灰色網掛けは、もも、ネクタリン、すももの共通防除時期を示す。斜線で示した時期は薬剤散布が不要な事を示す。

2 EBI剤：アンピルフロアブル1000倍、スコア顆粒水和剤2000倍、インダーフロアブル5000倍を選択する。ただし、アンピルフロアブルのすももでの使用回数は2回以内なので注意する。

<p>指導参考内容</p>	<p>2 「もも、ネクタリン、すもも」の樹種複合園では、平成21年もも病害虫防除暦（青森県特産果樹病害虫防除暦編成会議編）の散布時期、散布回数に「落花直後」の薬剤散布を追加し、年14回散布の計画を組み立てる。なおここでは、「すもも」は「日本すもも」と「プルーン」を示す。</p> <p>3 この際、「もも」と「ネクタリン」は登録内容が一致する農薬が多いことから、「もも、ネクタリン」を一つのグループとして散布計画を立てる。</p> <p>4 年14回の散布のうち、「もも、ネクタリン」は13回、「すもも」は12回の薬剤散布になる。</p> <p>5 「もも、ネクタリン」の樹種複合園では、4月上旬の「発芽前」から11月～3月の「休眠期」までの13回全ての薬剤散布を共通化できる。</p> <p>6 「もも、ネクタリン、すもも」の樹種複合園では5月上旬の「落花直後」、5月下旬の「落花10日後」、6月中旬の「落花30日後」、「7月上旬」、「7月中旬」を除く、9回の薬剤散布を共通化できる。</p> <p>7 「落花直後」の薬剤散布は「すもも」のみを対象に行う。また、「落花10日後」と「落花30日後」の薬剤散布は「もも、ネクタリン」のみを対象に行う。</p> <p>8 「7月上旬」と「7月中旬」の薬剤散布は「もも、ネクタリン」、「すもも」のグループごとに行う。</p> <p>9 すもものシンクイムシ類対策 8月上旬以降に収穫する日本すももでは、「8月上旬」と「8月中旬」に基準薬剤に変えてスカウトフロアブル2,000倍を散布する。ただし、ネクタリンにかからないようにする。</p>			
<p>期待される効果</p>	<p>もも、ネクタリン、すもも栽培において防除作業効率が高まり、また、3樹種間で薬剤ドリフトのリスクが軽減される。</p>			
<p>利用上の注意事項</p>	<p>1 本資料は平成21年3月2日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/">http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/</a>)を確認すること。</p> <p>3 「もも、ネクタリン、すもも」の樹種複合園における主要病害虫を対象に組み立てた散布体系であり、せん孔細菌病や黒斑病、モモハモグリガ、ハダニ類等の発生動向に十分注意する。</p> <p>4 せん孔細菌病及び黒斑病の防除では、3樹種に共通して使用できる抗生物質剤がないので、発生がある場合は、平成21年もも病害虫防除暦（青森県特産果樹病害虫防除暦編成会議編）又は平成21年度農作物病害虫防除指針（青森県農作物病害虫防除指針編成会議編）に基づいて個別散布を行う。</p>			
<p>担当部署 (担当者名)</p>	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:60%;">青森県農林総合センターりんご試験場県南果樹研究センター (小笠原博幸、村井智子)</td> <td style="width:20%;">対象地域</td> <td style="width:20%;">県下全域</td> </tr> </table>	青森県農林総合センターりんご試験場県南果樹研究センター (小笠原博幸、村井智子)	対象地域	県下全域
青森県農林総合センターりんご試験場県南果樹研究センター (小笠原博幸、村井智子)	対象地域	県下全域		
<p>発表文献等</p>	<p>平成17～20年度農林総合センターりんご試験場県南果樹研究センター試験研究成績概要集</p>			

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 もも、ネクタリン、すももにおける共通防除体系の実証（試験 1）

（平成18年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

回数	散布時期	散布日	もも、ネクタリン	すもも
2	発芽前	4/ 7	パルノックスフロアブル	500倍*
3	落花直後	5/22		パスワード顆粒水和剤 1,500倍
4	落花10日後	5/31	サニパー 600倍 ダーズバンDF 3,000倍*	
5	落花20日後	6/13	パルノックスフロアブル 500倍* ダーズバンDF 3,000倍*	オーソサイド水和剤 800倍 ダーズバンDF 3,000倍
6	落花30日後	6/20	サニパー 600倍 ダーズバンDF 3,000倍*	
7	落花40日後	6/29	ベルコートフロアブル ダーズバンDF	2,000倍 3,000倍
8	7月上旬	7/10	ベルコートフロアブル アグロスリン水和剤	2,000倍 1,000倍*
9	7月中旬	7/21	ダコニール1000 1,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	〔大石早生〕収穫前 ロブラール水和剤 1,500倍 スカウトフロアブル 2,000倍
10	7月下旬	8/ 1	ダコニール1000 1,000倍 モスピラン水溶剤 4,000倍	
11	8月上旬	8/ 9	ストロビードライフフロアブル スカウトフロアブル	2,000倍 2,000倍*
12	8月中旬 〔あかつき〕収穫前	8/21	アンビルフロアブル スカウトフロアブル	1,000倍 2,000倍*
13	8月下旬	8/31	ストロビードライフフロアブル	2,000倍
14	9月上旬 〔川中島白桃〕収穫前	9/13	ロブラール水和剤	1,500倍
1	休眠期	11/29	ガットキラー乳剤	100倍

（注）\*：パルノックスフロアブル、スカウトフロアブルはネクタリン、アグロスリン水和剤は、すももに登録がない。また、ダーズバンDFはネクタリンでの使用回数が2回以内である。なおこれらの薬剤は、本試験においては防除時期の把握のために使用した。

表 2 共通防除体系実証試験（試験 1）における各種病害の発生状況

（平成18年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

樹種	品種	灰星病(%)	黒星病(%)	炭疽病(%)	
もも	大久保	0	-	-	
	川中島白桃	0	2.0	-	
ネクタリン	フレーバートップ	0	-	-	
すもも	日本すもも	ニュー太陽	0	-	-
		太陽	0	-	-
		秋姫	1.7	2.0	-
	ブルー	サンプルーン	0	-	2.0
		グランドプライス	1.3	-	-
		プレジデント	0.5	-	-

（注） 1 調査月日

もも、ネクタリン：灰星病；8月22日「大久保」、9月15日「川中島白桃」、9月19日「フレーバートップ」、黒星病；8月8日  
すもも病害：「ニュー太陽」、「サンプルーン」8月22日、その他は9月7日

表3 共通防除体系実証試験（試験1）における各種虫害の発生状況

（平成18年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

区	樹種		品種	調査月日	調査果数	被害果率(%)	
						モモシクイガ	ハマキムシ類
共通防除区	もも		川中島白桃	9/12、9/15	281	0	-
	すもも	日本すもも	フォーモサ	8/10	120	0	2.0
			ソルダム	8/30	210	0	0
		プルーン	グランドプライス	9/20	328	0	0
		プールフル	9/20	400	0	0	
		砂糖李	9/20	595	0	0	
無散布区	もも		大久保	8/28、8/29	348	72.3	-

表4 もも、ネクタリン、すももにおけるシンクイムシ類防除体系の実証（試験2）

（平成20年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

散布時期	散布日	もも、ネクタリン	すもも
落花30日後	6/9	チオノックフロアブル ダーズバンDF	500倍 3,000倍
落花40日後	6/19	チオノックフロアブル	500倍 散布なし
7月上旬	7/1	ベルコートフロアブル サイアノックス水和剤	2,000倍 1,000倍 ベルコートフロアブル アディオソフロアブル
7月中旬	7/15	ダコニール1000 スタークル顆粒水溶剤	1,000倍 2,000倍 ロブラール水和剤 スカウトフロアブル
7月下旬	7/25	ベルコートフロアブル モスピラン水溶剤	2,000倍 4,000倍 散布なし
8月上旬	8/4	ストロビードライフフロアブル スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 2,000倍
8月中旬	8/13	ロブラール水和剤 モスピラン水溶剤	1,500倍 4,000倍
8月下旬	8/26	ストロビードライフフロアブル スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 2,000倍
9月上旬	9/5	インダーフロアブル	5,000倍

表5 シンクイムシ類防除体系の実証（試験2）におけるモモシクイガの発生状況

（平成20年 青森農林総研りんご試県南果研セ）

樹種	品種	収穫日	調査果数(果)	被害果率(%)	
もも	あかつき	8/8	40	5.0	
	川中島白桃	9/19	249	2.0	
ネクタリン	ファンタジア	9/19	221	1.8	
すもも	日本すもも	ソルダム	8/7	98	28.6
		秋姫	9/8	110	53.6
	プルーン	ビクトリア	8/7	502	3.0
		サンプルーン	9/2	381	0
	シュガープルーン	9/2	199	0	